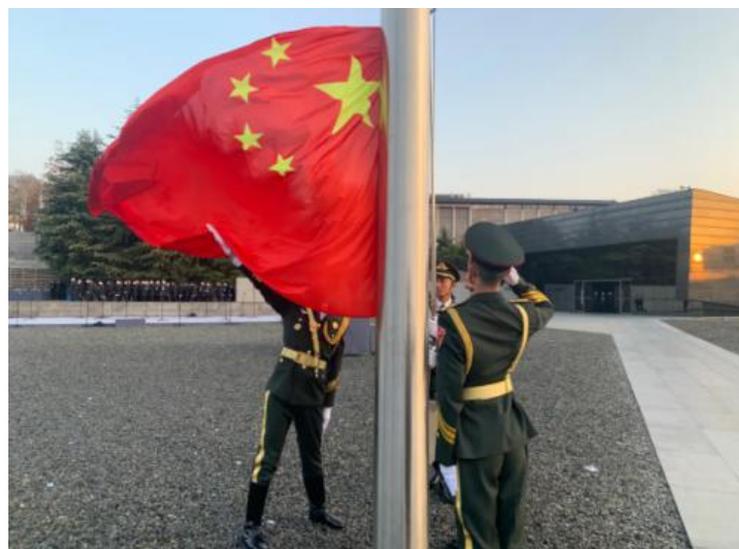


第八回南京大虐殺犠牲者国家追悼式の記録

国旗・半旗掲揚式

12月13日午前8時に、当館の公祭広場で国旗掲揚式、半旗掲揚式が行いました。中華人民共和国の国歌と共に、中華人民共和国の国旗がゆっくりと揚がり、そして静かに下ろされ、半旗になりました。国を挙げて南京大虐殺犠牲者を追悼する日の始まりです。





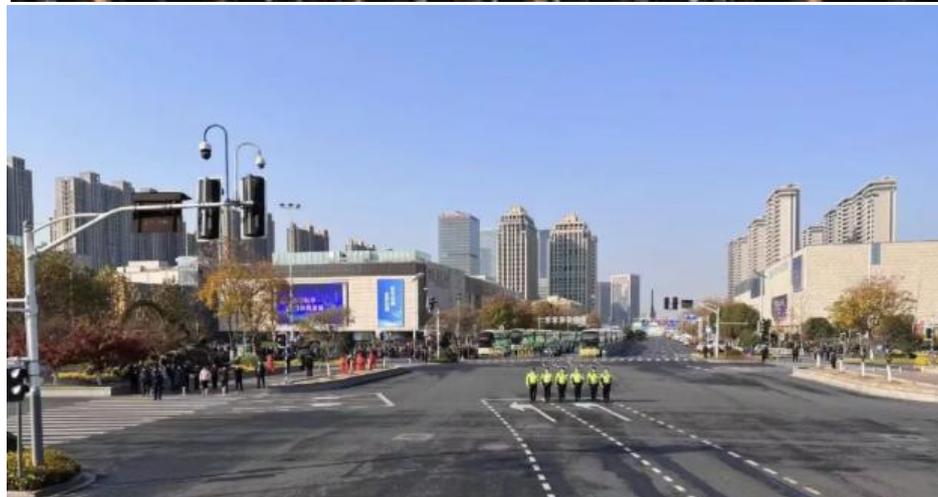
南京大虐殺犠牲者国家追悼式

午前 10 時に、公祭広場で南京大虐殺犠牲者国家追悼式が行いました。各界の代表者約 3000 人が胸に白い花のバッジを付けて参列しました。



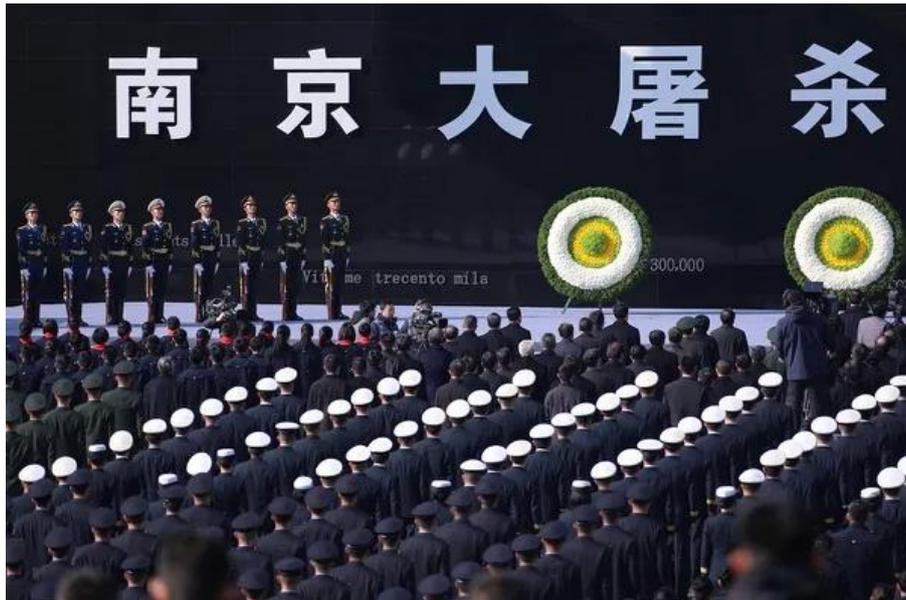
「義勇軍進行曲」を合唱すると共に儀式が始まりました。全員が黙祷を捧げ、南京市内で空襲警報のサイレンが鳴り響き、車が一旦停車でクッションを鳴らし、歩行者も止ま

って一緒に黙祷しました。





黙祷が終了した後、中国人民解放軍軍楽隊が「国家公祭献曲」を演奏、16名の儀仗兵が8個の花輪を公祭台に持ち運んで献花しました。



中国共産党中央政治局委員・国務院副総理孫春蘭氏がスピーチしました。その後、84名の南京市青少年代表が『平和宣言』を読み上げ、6名の社会各界の代表が「平和の大鐘」を三回鳴らした。3000羽の平和の鳩が飛んでいき、犠牲者への思いと世界平和への願いを背負って飛び回っていました。





世界平和法要

午後 3 時、当館の「南京嘆きの壁（泣き壁）」で世界平和法要を行いました。南京の宗教界の方々および信者たちがお経を読み上げ、世界の平和を祈りました。



燭光祭・国際平和集会

午後 5 時半、燭光祭および国際平和集会が当館の祭場で行いました。南京大虐殺生存者の遺族代表や病院代表、学生代表、僧侶代表らが集まり、キャンドルを点灯し、犠牲者を祈りながら平和を見守っていました。今回の燭光祭で 5G、透明 LED スクリーン、リアルアバターなどの技術を駆使し、オンラインとオフラインを結合しながら、もっと多くの人々が 12 月 13 日の夜にキャンドルを点灯するチャンスを与え、一緒に哀悼の意を伝えていくことができました。

